

# ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第14弾（最終回）が公開されました！

ニッキン投信情報（2025年7月14日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の最新記事が公開されました。

最終回となる本紙では、“インド経済の現在地と未来を支える要素たち”をテーマとして寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2025年7月14日発行 第1372号 (1)

## ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2025 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-3-15 電話 03(3281)9971  
 週刊（毎週月曜日発行） 購読料1ヵ年165,000円(税込)

**CONTENTS**

09 窓販ファンドの5年間騰落率（2025年5月末）  
 野村「野村世界業種別投資（世界半導体）」が383.3%で1位  
 2025年5月末基準で、銀行、信金等で取り扱いがある窓販ファンド2,032本の5年間騰落率を算出した。騰落率が最大だったのは、383.3%の野村「野村世界業種別投資シリーズ（世界半導体株投資）」で、2位は377.8%で大和「iFreeNEXT FANG+インデックス」だった。

運用会社	ファンド名称	騰落率 (%)
野村	野村世界業種別投資シリーズ (世界半導体株投資)	383.3
大和	iFreeNEXT FANG+インデックス	377.8
大和	FANG+インデックスオープン	377.3

03 プラチナNISAという話題  
 04 激乱相場に強い投資信託（中）～百戦錬磨の日本株ファンドを再評価する～  
 モニタリングシニアアナリスト 楽天証券経済研究所客員研究員 ファンドアナリスト 藤田尚子

インタビュー  
 06 ブルームバーグ日本統括責任者 ノーマン・L・トウエイボム氏（写真）  
 さまざまなインデックスニーズに対応

投資営業最前線  
 08 投資営業最前線に聞く 西日本シティ銀行 二日市支店 安部有香さん  
 「めげない心」でアプローチャ  
 74 ファンド列島 神楽川集 非対面チャネルの活用増加

調査  
 72 新規窓販額ランキング（2025年6月調査）  
 1位は野村「（早期償還型）野村ハイベータ日本株2506」で1,523億円

ニュース  
 79 新規募集・窓販ファンド  
 楽天「楽天・高配当株式・日本ファンド（資産成長型）」など7本  
 81 販売会社情報 池田泉州銀、大東銀、あいち銀、華南信金、百尾信金、鹿児島相互信金  
 83 運用会社情報 フィアリティ、グローバルX、リソナ

連載  
 84 月間マーケットウォッチ 米相互関税で日本に高関税のリスク  
 大和証券 投資情報部 ストラテジ課 シニアストラテジスト 細井秀司  
 85 黄金時代到来！？なるほどインド講座（最終回）  
 インド経済の現在地と未来を支える要素たち  
 イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友  
 86 企業を強くする金融教育経営（第2回）  
 中小企業における金融教育経営の導入メリット  
 金融教育ホワイト企業機構 代表理事 墨野孝平  
 初任給は14万円  
 87 シン・濃縮知新のつみたて投資（第92回）  
 日本つみたて投資協会 代表理事 太田 剛

「ニッキン投信情報 別冊 金融機関別 窓販ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikken.co.jp/toushin/ouraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS



**<当資料に関してご留意いただきたい事項>**  
 ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。○当資料で使用するグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

## 連載



本コラムもいよいよ最終回を迎えます。今回は、これまで取り上げてこなかった重要な視点を加え、インド経済の構造と成長力をより多面的に捉えてみたいと思います。

### 国内投資家が支えるインド株式市場

インド株式市場の堅調さの背景には、安定的な国内投資家の存在があります。売買比率においても、外国投資家の比率は15%程度にとどまり（図表参照）、資金フローの面でも、外国投資家は国際的な市場心理の変動に応じて出入りを繰り返す一方、国内投資家は一貫して買い越しを続けています。この継続的な資金流入こそが、インド市場の底堅さを支える要因です。Vol.6（2024年11月11日号掲載）でご紹介した積立投資の効果は、インドでも顕著です。現地では「SIP」と呼ばれる投資信託の積立制度が広く普及しており、多くの個人投資家が長期的な資産形成に取り組んでいます。インドの金融リテラシーの向上とともに、健全な市場形成に寄与していると言えます。

### 1人当たりGDPと消費の未来

経済発展の一つの目安とされる「1人当たりGDP3,000米ドル」。この水準を超えると、電化製品や自動車などの耐久消費財への需要が本格化すると言われています。インドの1人当たり名目GDPは25年時点で約2,878米ドルと推計されており、消費構造の転換期を迎えつつあります\*。インドの消費拡大は、単なる人口増加や所得向上だけでは語れません。スマートフォンの普及やデジタル決済の浸透、さらには中間層のプレミアム志向の高まりといった「新しい消費の形」が、経済成長の新たなドライバーとなっています。

さらに、政府のデジタル化政策や地方へのインフラ整備が、これまで取り残されていた層にも新たな購買力をもたらしています。インドの消費市場は今、広がりや深まりの両面で進化し

ているのです。

\*出所：IMF 世界経済見通しデータベース（2025年4月）

### モディ首相のリーダーシップとその継承

インドの経済改革をけん引してきたナレンドラ・モディ首相は現在74歳。健康状態に問題は報じられておらず、外交・内政の両面で精力的に活動を続けています。現時点で後継を巡る大きな議論はありませんが、インド人民党（BJP）内にはアミット・シャー内相や人口2億人超の最大州・ウッタル・プラデーシュ州首相のヨギ・アディティヤナート氏など、有力なリーダー候補が控えています。

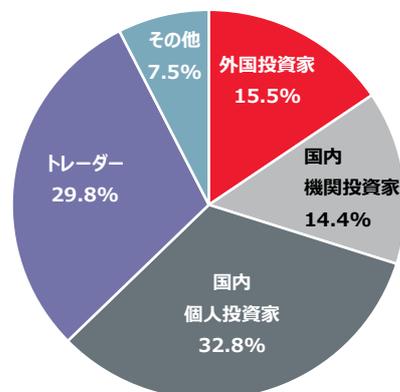
モディ首相の強力なリーダーシップのもと進められてきたGSTの導入やインフラ投資の拡大、デジタル経済の推進、「Make in India」政策などは、インド経済の成長軌道を明確に示すものであり、今後も継続的な発展が期待されます。インドは今後も、人口ボーナスと技術革新を武器に、世界経済の中でその存在感を一層高めていくことでしょう。モディ首相が築いた経済改革の基盤は、インドの未来を語る上で欠かせない要素であり、後継者によって着実に引き継がれると見られます。

本コラムを通じて、インドという国が持つダイナミズムと経済成長の可能性を少しでも感じていただけたなら幸いです。ご愛読、誠にありがとうございました。（了）

（執筆：イーストスプリング・インベストメンツ

取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友）

図表 ナショナル証券取引所（NSE）の投資家別売買比率



出所：NSEのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。2025年4月時点。\*外国投資家：FPI、FDI、海外VCファンドなど。国内機関投資家：銀行、ミューチュアル・ファンド、保険会社、NBFC、国内VCファンドなど。国内個人投資家：個人および個人事業主など。トレーダー：プロプライエタリー（自己勘定）トレーダー。本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。